

神の計画はこうして成し遂げられた33

「終わりはどうなるのですか？」

ダニエル書12章5から13節

導入

26か月前に中高生と創世記からスタートした聖書を辿る旅は、これから小預言書とエズラ、ネヘミヤ、エステルを年度内に辿って、2024年の3月に黙示録に辿り着こうとしています。これまでで最も興味深かったのが、このダニエル書でした。ダニエル書には、聖書で最も有名な3つの物語が記されている。とされています。燃える火の炉の中のシャデラク、メシャク、アベデ・ネゴの物語、ベルシャツアルの宴会の壁に記されていた文字の物語、そして獅子の洞穴のダニエルの物語。教会学校では、子どもたちが、3年に一度これらの話をきく機会があります。ダニエル書には、聖書が描いているふたつのメッセージのどちらもあるなあ！神さまは、生きておられるお方なので、この世界に神の国が実現するというのがひとつで。そのことを描きながら、終わりがどうなるかに照準をあわせている。それがもうひとつですね。

どうやら、ダニエルが一番神さまにお聞きしたかったことが、「終わりはどうなるのですか？」でした。皆さんが、神さまに一番お聞きしたいことは何ですか？

終わりはどうなる？この気になる問いかけへの神さまからの答えが、「それは、これらのことは、秘密にされ、封印される。」でした。

秘密って、先週もありましたよね。それは、たとえで語られるようなものだって。見るには見るけれど、認めず、聞くには聞くけれど、理解できず、立ち返って赦されることがない。ですから、認めて、理解できて、立ち返って赦された皆さんには、秘密にされたのではない！ということになりますね。安心してください。

封印されるってどんな感じですか？封をした証拠として印を押したり、証紙を貼ったりすることを封印と言ったりしますね。過去のことを忘れて、水に流したりすることも封印する。と言ったりします。あるいは、将棋の世界で「封じ手」と言ったりして、対局を途中で中断する場合に、次の一手を用紙に記入して、それをしっかり封をして立会人に預けるんですね。その手を封じ手といいますね。対局が再開された時に、開封して着手する。2日制の対局で、1日目終了する時に封じ手が書き込まれるんですね。持ち時間制で、対局者への公正を期することがその目的ですね。ダニエルに対して神さまが言われた封印はというとですね、それは、（隠されるというのではなくて、）神さまに権威づけられる！さらには、喪失されないように、保存されるという意味のようですね。神さまに権威づけられ、保存されるのだ！そして、終わりの時に、明確に理解される時が来る！

わたしたちは、その間を生きているんですね。そのわたしたちにとって、今朝の聖書は、何を意味するのでしょうか？

本論 1

ノア、ヨブと共に旧約聖書に出てくる最も義しい人たちのひとりとして記憶されているダニエルは、いずれも非ユダヤ人でしたが、その名は、裁かれるのは、神さまだ！という意味でした。自分の名前という意味でもありましたから、彼は、神が審判をされる、その終わりがどんなかを知りたかったでしょうね。

サッカーの審判だったら、最後に笛を鳴らすんですよ。野球だったら、ゲームセットとコールするんですよ。相撲だったら、行事さんのジャッジをジャッジする審判が土俵の下に5人いて、東と西の力士のどちらが勝ったかを刺し違えたときに、審判から物言い！が言い渡されるんですよ。東京オリンピック、パラリンピックでの33競技の339種目での審判の動きにも注目してみたいかなと思うのですが。聖書の神さまは、最後の瞬間、何をなさるのか？ダニエルは、それを知りたかった。

ダニエル書は、迫害に苦しむユダヤ人を激励するために書かれたので、なおさらでした。歴史上、めまぐるしく他国の支配下に置かれたユダヤ人たちが、知る必要のあったのは、神さまが、主権者であられて、最後の勝利は、神によりたのむ民に与えられる！というメッセージでした。

神さまは、夢と幻という特別な方法で、ご自身のみこころをお示しになりました。夢を見た王は、神さまを信じている人ではなかったりしましたが、その解き明かしが、ダニエルに託されました。そこで明らかとされたのは、神の国で、ダニエルが信じている神さまこそ、秘密を明らかにされるお方だ！輝いたのは、神の権威ということでしたね。

金の像を拝むことを王に命じられても、拒否したら、火の燃える炉の中に直ちに投げ込むと脅かされても、「わたしたちが仕える神さまが、救い出すことができます。」と言い表し、「たとえそうでなくても」と神さまへの信頼を言い表わして、明らかとされたことは、このように救い出すことができる神は、ほかにいない！ということでしたね。

ダニエルが夢を解き明かすと、そのことは直ちに成就して、そこで明らかとされたことは、解き明かされた王が、永遠に生きるお方を賛美し、崇めるということでした。王の目の前で王宮の壁に謎の文字が書き記され、ダニエルがそれを解き明かすと、そこで導かれたのは、王の命とすべてをみ手に握っておられる神を畏れ敬う心でした。

ダニエル自身が見た幻の最後のものは、終わりの日についてのものでした。迫害の中にいる人たちを激励するために書き記されたダニエル書の10章以降に記されていますね。終わりの日に起こること、子羊の命の書に名を記された者が救われ、眠りから目覚め、永遠の命へと導かれることが、ダニエル書の12章、終わりに記されています。このことばを秘密にし、封印するよう言い渡されたダニエルは、なおも幻を目にしますね。先ほどお読みした箇所です。

この驚くべきことはいつになったら終わるのですか？との問いかけに、一年、二年と半年の間がたって、聖なる民の力が全く打ち砕かれると、これらすべては成就する。今の時代は、聖書の光に照らしてみると、わたしたちの力が砕かれるプロセスなんですよ。そ

れがいつ終わるかという、一年、二年と訳されていることばは、神が定められた時という意味のことばでもあるので、やはり、父なる神のみぞ知る時になるのでしょうか。

理解できなかったダニエルの問いかけは、今度は、それだったら、主よ、これらの終わりはどうなるのですか？となりました。

最後の約束は、神さまの恵みの宣言ですね。あなたは終わりまで自分の道を行きなさい。そして、憩いに入ります。わたしたちが碎かれる人生の終わりは、憩いに入ると約束されています。神さまのご計画が成し遂げられた、その地に迎え入れられるのですね。

本論 2

この碎かれるプロセスに伴うのが、神さまの沈黙なんですね。神さまの沈黙って、夢や幻の中にもあると思うんですけど、夢や幻以上に、現実なんですよ。

神さまの沈黙は、わたしたちが碎かれるプロセスについて回るといえるか。神さまの沈黙なしには、わたしたちは、碎かれない！と言ってもいいかもしれないですね。

遠藤周作の『沈黙』に惚れ込んで、30年越しで完成させた巨匠マーティン・スコセッシ監督の映画 Silence は、蟬の音で始まりました。「ゼウスは、どうして助けに来ないんじゃ。」ポルトガル語でクリスチャンを意味するキリシタンと呼ばれた人たちの神は、信じない人たちには、そのように映りました。1633年のことです。

イエズス会から送られたフェレイラ神父には、平安がありませんでした。島原の乱以降いよいよキリシタン弾圧は激しくなっていました。ただでさえ幕府にとって都合の悪い教え（将軍より基督の方が上、人類皆平等など）のうえに一騎を起す存在に対して踏み絵を踏ませて、背教を迫りました。逆らう者には、つまり棄教せぬ者には、惨い拷問が待っていました。そこへ、ポルトガルからふたりの神父が送られてくることになったんですね。ふたりを待っていたのは、隠れキリシタンたちでした。彼らは、ふたりをして、「わたしを待つ彼らの喜びを見て、恐れが消えました。」と言わせるほど、礼拝をささげるために、懺悔を聴いてもらうために必要としていた、待ち望まれた存在でした。

プロテスタントの救済観からすると、踏み絵を踏んでも踏まなくても、キリストの救いの確かさを否定することにはならないですね。しかし、カトリックの救済観からすると、そうはいきません。そのことは、救いにとって不可欠な中世から続く教会の定めた善行や裁きに抵触することになるのです。救済観だけではありません。神父の存在と権威が万人祭司のプロテスタントの牧師とは違います。神父が絶たれたら、日本の教会が絶えると、それほど赦しを与える権威にしても違います。沈黙というタイトルは、迫害の中にいる信者が祈り、叫んでいるのに、神さまはなぜ沈黙しているかを問うているんですよ。もうひとつは、カトリック教会の中で殉教した宣教師は、名誉を称えられる形で記憶に残されるのに対して、棄教していった宣教師たちを黙殺していった歴史の中で、そういう人たちの沈黙を描きたかったということだったんですよ。このふたつの問いかけは、映画の中のクライマックスで、人工的な音はおろか、自然界の音すら消えた文字通りの沈黙の中で、「わたしは、あなたがたと共に苦しんできた。」という神の声と、ロドリゴ神父が踏み絵を

踏むことになったその経緯を丁寧に描いているところに、さらに踏むことを促す神の声に、あなたがたの苦しみを背負うためにわたしは来た。とささやかれた神の声に表現されていました。聖書の語る平安は、神のみこころが完成するところにあります。ヘブル人への手紙 11:1にあるように、望んでいる事柄を権威証書によってすでに手にしているわたしたちは、見えない事柄を確認する中に、十字架の基督の苦しみ、恵み深さを味わうことになったのだと思います。それほどまでに歴史的なことでなかったとしても、わたしたちの碎かれるプロセスは続きます。いやですか？そんなことはないですよ。碎かれた先に待っているものは、憩いに入ることなんですから。